

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】 3【そなえる】	㉑【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人等と一緒に生活している地域社会において、お互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。 ㉒【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年2月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	総合的な学習の時間

【題材】

東日本大震災発生当時から支援活動が続いている(岩手県校長会で取り組んでいる復興支援横軸連携)大槌町立吉里吉里中学校との部活交流会を通してお互いの絆を深めるとともに、避難経路体験を通し大槌町での被災の状況を理解する。

【復興教育の視点】

本校の学校経営方針「保護者と地域に信頼される教育の推進」の重点の一つに「故郷を愛し、その復興・発展を支えるとともに、自らの未来を切り開いていくことのできる生徒の育成」と位置付けている。今回の吉里吉里中学校との交流会を通しお互いの絆を深め、更に大槌町の被災の状況を理解することにより、郷土への愛情、仲間、家族、地域とのつながりを再認識し、将来、様々な分野において復興・発展の担い手となる生徒の育成を目指している。

【実践の概要】

湯田中学校2学年23名は11月12日(火)に大槌町を訪問し、実際に避難路を歩いてみる体験や現地の語部さんからの説明を通し東日本大震災津波における大槌町の被害状況や当時の状況について体感的に理解を深めた。また、大槌町立吉里吉里中学校との部活交流会を通しお互いの絆を深め合うことができた。

【実践の詳細】

1 吉里吉里中学校交流会の流れ(別紙1参照)

- 7:40 湯田中学校出発
- 11:00 おらが大槌夢広場着  
 <避難経路体験、震災語部さんの講話受講>
- 12:10 昼食休憩
- 12:50 吉里吉里中学校着  
 <開始式・部活動交流会>
- 15:00 吉里吉里中学校発
- 18:00 湯田中学校着



<役場前で黙祷をささげる>



<役場の被災状況を知る>

2 避難経路体験・語部さんの講話受講

一般社団法人「おらが大槌夢広場」の語部さん上谷実央さんの案内で大槌町内を見学。たくさんの方々の方が亡くなった大槌町役場前の祭壇の前で黙祷をささげた。その後、以前公園のあった場所にある昭和三陸津波の際に建立された石碑について説明を受けた。その石碑には「地震が来たら、逃げろ、津波が来る、津波が来た場所に家を建てるな。」と刻まれており、先人たちの警告を謙虚に学ぶべきだということ学んだ。更に、城山公園から街並みを見下ろし変わり果てた姿に改めて被害の大きさ、津波の恐ろしさを学んだ。



<避難路をたどる>

生徒の作文から

「手をはなすか、はなさないか・・・」

坂を上る途中に「一緒に逃げて来たお年寄りの手をはなすか、はなさないか」という話で、私ならどうするか難しいと

思いました。大槌の人たちはその時判断しなければならなかったしつらかったと思います。

### 「行ってきます」「ありがとう」という言葉を大切に

震災などにより家族や友達に突然会えなくなってしまうこともあるのです。普段の暮らしの中で言っている「行ってきます」や「ありがとう」という言葉を大切に伝えたいときにすぐ伝えるようにしたい。

### 「これまで以上に家族を大切にしたい」

私は学習を通して家族の大切さも改めて実感しました。そしてこれまで以上に家族や仲間を大切にしていきたいです。少し恥ずかしいですが家族に向けて「今までありがとう。」と、言葉で伝えたいです。

## 3 部活交流会

5・6校時を利用して各部に分かれ部活交流を行った。野球部は仮設グラウンド(校庭は仮設住宅が立ち並んでいます。)男女バレーボールは体育館、男女卓球部は旧体育館、吉里吉里中学校にはテニス部が無いので音楽部と一緒にホールでそれぞれ合同練習を行った。

それぞれの部活動でそれぞれの中学校の練習方法を紹介しながら活動を進めた。テニス部と音楽部は、はじめ吉里吉里中学校の音楽部の生徒が湯田中学校テニス部の生徒に楽器の演奏の仕方を教え、その後湯田中学校テニス部の生徒が吉里吉里中学校音楽部の生徒にラケットでボールの打ち方を教えた。

### 生徒の作文から

- 吉里吉里中卓球部は新人戦で男女ともに良い成績を残し震災にも負けずにがんばっていることがわかりました。団体戦もシングルも吉里吉里中学校は強くそして明るい卓球部だなあと思いました。
- 吉里吉里中学校との合同部活動交流会では、被災したしない関係なく元気に野球交流できました。吉里吉里中学校野球部も人数が少なく大変だと思いましたが、負けずにがんばってください。
- 音楽部との交流ではアリエッティの曲を吹いていただきました。8人という少ない人数でも迫力ある演奏を聞くことができました。その後の楽器体験ではフルートとクラリネットを体験しました。アドバイスをいただきうまく吹くことができました。自分たちがテニスを教えたときも皆楽しんでやっていました。

### 【考察】

- ・ 避難体験・語部さんの講話受講を通し大槌町での被災の状況や当日の様子を体験的に理解することができた。また、講話を通し郷土に対する愛情や家族、仲間、普段の何気ない日常やあいさつ等言葉を交わすことの大切さについて再認識する大変良い機会となった。(別紙2参照)
- ・ 部活動交流を通しそれぞれの練習方法を交流することにより両校の絆をより深いものとする事ができた。
- ・ 今年度の交流のあり方を検証し来年度以降の支援、交流のあり方について検討していく必要がある。

(交流の様子を紹介した校報を添付します。)



<城山公園で語部さんにお礼>



<音楽部との交流>



<音楽部との交流>



<バレー部の交流>



<野球部の交流>